東日本大震災・台風12号被害
医療支援活動報告書

公立大学法人
和歌山県立医科大学

目　次

はじめに
第１部　活動記録　東日本大震災
写真特集…… 4
主な活動状況
１　ＤＭＡＴ活動…… 9
２　検死活動…… 13
３　医療救護班活動（和歌山県チーム）
第１班…… 14
第２班…… 22
第４班…… 26
第５班…… 28
第６班…… 30
第９班…… 32
第１０班…… 34
第１１班…… 36
第２２班…… 38
第２３班…… 40
第２４班…… 42
第３３班…… 44
第３４班…… 46
４　被災障害者支援活動…… 48
５　被ばく医療支援活動（福島県立医科大学）…… 50
６　和歌山県こころのケアチーム活動…… 52
７　小児医療支援活動…… 55
８　全国医学部長病院長会議からの要請に基づく派遣… 57
９　岩手県下閉伊郡山田町までの道程と活動 MAP…… 58
10　岩手県からのお礼状…… 60
第２部　活動記録　台風１２号被災
写真特集…… 62
主な活動状況
１　ＤＭＡＴ活動…… 66
２　リハビリテーション科支援活動…… 68
３　医療救護班活動…… 70
４　学生ボランティア活動…… 75
５　職員ボランティア活動…… 78
６　那智勝浦町・新宮市熊野川町の活動 MAP…… 82
７　那智勝浦町からのお礼状…… 83
新聞記事…… 84
むすびに

はじめに

和歌山県立医科大学附属病院長　岡村　吉隆

東日本大震災発生からまもなく1年が経過します。マグニチュード9.0の大地震、高さ17ｍにも達したと言う大津波、そして福島原発の放射能問題。これらが連鎖して想像を絶する災害が広範囲に起きました。亡くなられた方のご冥福をお祈りすると共に、身内や住まい、職を失われた方など、今尚不自由な生活を強いられている多くの方々が、少しでも早く、平穏な生活を取り戻されることを願っています。

私たちの大学がある和歌山市から仙台市は鉄道距離で約1000ｋｍ離れています。紀伊半島にも津波が到達する危険性が指摘されましたが、結果的には直接的な被害は西日本には及びませんでした。震災発生直後に災害対策本部を院内に設置し、被災地への支援策や被災者の受け入れ、院内の診療体制などを連日協議しました。震災翌朝には、DMATがいわて花巻空港で活動を開始しました。関西広域連合で、和歌山県は岩手県を支援するという役割分担が決まるや、県内の医療機関と連携して、3ヶ月余りにわたって救護チームを交代で送りました。他にも、検死活動や脊髄損傷者支援活動、こころの医療チーム、小児診療支援など、大学全体を挙げて支援活動を行いました。7月に入り、被災地の医療機能がある程度復旧したことが確認され、救護班の派遣は一旦終了にしました。

岩手県への支援とは別に、福島県の放射能被害への支援も行いました。

福島県立医大が和歌山県立医大と同様、地方の県立医大であることや、診療科単位での交流などもあったことから、病院長レベルで相談し、福島医大救急部の人的支援の意味も込めて救急医を1週間交代で述べ11名を送りました。

さてその半年後、紀伊半島を台風12号が通過し、深層崩壊あるいは山津波とも呼ばれる土砂崩れで多くの被害が出ました。この災害に対してもDMATを那智勝浦町や新宮市に派遣し、那智勝浦町被災地内での救護活動や新宮市熊野川での現地救護所の立ち上げなどに従事しました。

その後2週間、那智勝浦町温泉病院からの要請により、医師、看護師、事務職員、学生等を現地救護所や那智勝浦町立温泉病院に派遣しました。被災地支援が中長期に及んだ場合、本学だけでなく県全体としての支援に変更される予定でしたが、医療ニーズの変化による救護所体制の縮小と那智勝浦町立温泉病院から医療体制が整ったとの申し出があったため、災害対応としての派遣を終了しました。東日本大震災では地震そのものよりは津波の被害が大きかったために、日本中が津波対策に視点が注がれていたように思います。しかし、台風12号では、内陸部での被害が甚大でした。海も山も安全と言える場所はないと思わなければならないような気がします。

和歌山県立医科大学附属病院は和歌山県の基幹病院として多くの使命を持っています。しかし、災害拠点病院でありながら、病院の目の前が海という立地で、現在ある防波堤が、東日本大震災級の津波に耐えられないことは明らかです。病院周辺も含めた立地上の問題は県を中心に検討して頂いているところですが、病院独自で練るべき対策も多いと感じています。食料､水、医薬品、医薬材料などの備蓄、エネルギーの確保も現在以上の量が必要です。

これまで、和歌山県内のいくつかの月刊誌などで、我々の支援活動状況を報告してきましたが、今回の二つの災害に対する私達の対応を振り返り、来るべき災害に備える意味を込めて、もう少しボリュームのある内容で冊子を作成しました。目を通して参考にしていただくことがあれば光栄ですし、被災地や行政など、異なる立場からのご意見をお聞かせいただければありがたいです。